

■ JXホールディングス(5020) 2012年度第3四半期決算 アナリスト説明会 Q&A

1. 日 時 : 2月5日(火)16:00-17:00
2. 出席者数 : 115名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 通期の業績予想(在庫評価影響除き経常損益)を3,000億円で据え置いた。予想達成の確度は?

A. 今回の予想では、石油開発、金属の資源開発事業など、12月決算会社については実績となっている。また、石油精製販売事業では、第3四半期までの業績に加え、足元の状況を勘案した製品マージンを設定しており、11月の公表時点に比べ、業績予想達成の確度は高い。

Q. 石油精製販売事業では、製油所のトラブルが多発した。収益への影響はどの程度発生したのか?

A. 水島製油所B工場における高圧ガス保安法上の不備報告をはじめとし、装置トラブルが多発した。収益への影響については、石油製品は連産品であるため、具体的な影響額の算定が困難であるが、代替調達に伴うコスト増や不経済転送等が、相当程度発生した。

Q. 石油開発事業のトピックスとして、12月に英領北海における複数の油・ガス田権益を買収しているが、生産量への寄与はどの程度か?

A. 今回の買収権益の中には、既に生産中の油・ガス田に加え、英領北海における既発見未開発油田としては最大規模のマリナー油田や、当社が既に権益の一部を保有しているキヌール油田、カリーングラス田等が含まれる。今回の買収により、2020年頃には英領北海における生産量が日量4~5万バレルに達すると見込まれ、グループの長期ビジョンである「2020年の生産量 日量20万バレル」の達成に大きく寄与するものと期待している。
なお、今回の権益買収は、英国政府の承認等をもって権益譲渡が完了する。

Q. 次期中期経営計画の対外公表スケジュールは?

A. 2012年度内に取りまとめた上、速やかに公表したい。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。